

幾代会観察会 12月例会のまとめ

- ◆日時 2024年12月1日(日)
- ◆散策場所 日向和田駅～宮ノ平駅
- ◆集合場所 JR 日向和田駅(改札口を出た付近)
- ◆参加者 梅田さん、大田さん、須田さん(初)、土方さん、武藤さん、山下さん
(ガイド) 越前さん、深川 以上8名
- ◆ポイント カゴノキとシダレイトスギの観察

JR 日向和田駅 10時 → イチョウ、赤い実、タブノキ、カゴノキ、アオギリ →
JR 日向和田駅(昼食) → 明白院 → 和田の乃神社(シダレイトスギ) →
レンガ作りのトンネル → 楯の城 → 首洗いの井戸 → 臨川庭園 →
JR 宮ノ平駅(14時半)

●イチョウ 中国原産 公孫樹(中国名)



シダ植物の後に現れた裸子植物。中生代のジュラ紀に繁栄しました。(2億5000万年～6500万年前) その後の氷河期などの環境変化でイチョウの仲間は、どんどん滅び、原生種のイチョウ1種を除いて他はすべて絶滅してしまいました。街路樹の本数、国内一位のイチョウですが、野生種は国際自然保護連合のレッドリストです。

先月、岡さんが説明してくださったイチョウの受精の仕組みの図が、「里山さんぽ植物図鑑」p287が、あります。奥多摩駅伝大会が行われていたので、通り挟んだ所から、樹形、落葉の形が色々あることを観察しました。



●タブノキ

別名 イヌグス、タマグス、タマノキ、ダモ、マダミ（八丈島）、紅楠（中国名）

樹皮は、タンニンを含むため染料として利用（黄八丈の樺色）、香りや粘性がある為香料や線香の材料にもつかわれます。

葉、芽鱗痕、頂芽、アオスジアゲハのサナギ、タブノキ葉裏白フシ（虫こぶ）等の色々な観察が、出来ました。

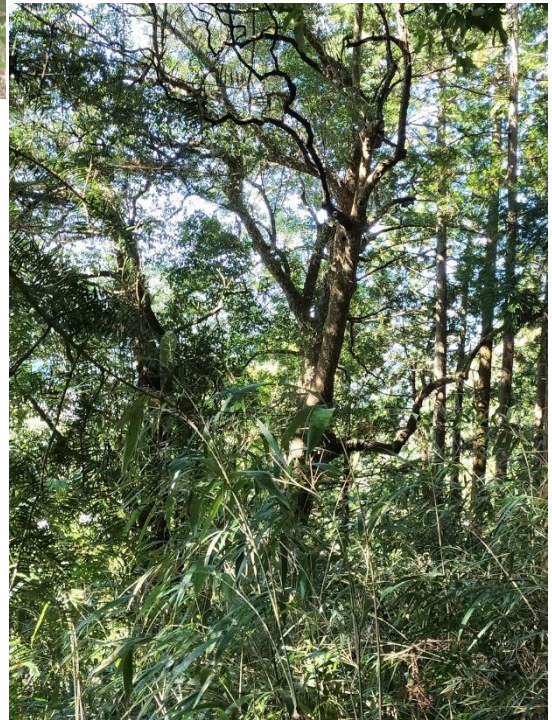
●カゴノキ（鹿子の木）

茨城県及び石川県以西の暖地に分布するクスノキ科。

名前の由来は、成木の樹皮が、鹿の子供のような斑（マダラ）模様になることにちなむ。

足場が悪いため、遠方より樹皮、樹形観察。この木は、雄株です。

天然記念物のカゴノキが、あきる野市地藏院、八王子市小仏（宝珠寺）にあります。



●アオギリ（青桐）

中国南部・東南アジア原産。

昔は、緑のことを「青」と言いました。葉は、「桐」の葉に似ているので、「アオギリ」の名前になりました。

三大美幹木 シラカバ、ヒメシャラ、アオギリと呼ばれています。アオギリ老木は、樹皮が

灰色っぽくなる。

昭和記念公園のアオギリは、大木で種の印象が強かった為、若木の樹皮観察は、良い復習になりました。残念ながら、種の観察はできませんでしたが、線路向こうの山の斜面にあるアオギリから、旺盛な繁殖状態の様子が、推測されるました。



●シダレイトスギ（イトヒバ）

高さ 35m、直径 2m までになる高木、樹幹は通直。
和田乃の神社の境内のシダレイトスギの樹幹は、上部切断。葉は、高所にあるため仔細な観察はできませんでした。

撮鉄に集合写真を撮って貰いました。

2024.12.11 深川 記

